

研究開発課題事後評価結果

| | |
|-----------|---|
| 事業名（年度） | 次世代治療・診断実現のための創薬基盤技術開発事業 （平成28年度～令和2年度） |
| 研究開発課題名 | 糖鎖利用による革新的創薬技術開発事業 |
| 分担研究開発課題名 | 高感度・高特異性改変レクチン開発によるGAG鎖およびO-GlcNAc修飾を標的とした創薬探索技術の確立 |
| 代表機関名 | 国立大学法人東京大学 |
| 研究開発代表者名 | 山本 一夫 |

【評価結果】

良い／総合的に計画した成果が得られた

【評価コメント】

O-GlcNAc修飾を検出するdisaccharide-tag 法を開発し、改変レクチン技術をGAGの特異的検出に発展させたことは、独自性が高く、本課題の実用化に向けた課題解決として評価できる。また、O-GlcNAc修飾タンパク質に対する部位特異的な抗体を作製し、修飾タンパク質がある転写因子のサブユニットであることを見出した。この転写因子はさまざまな病態に関与しており、O-GlcNAc修飾がその機能制御に関与している可能性があるため、病態との関連に踏み込んだ解析が今後期待される。GAG鎖認識改変レクチンに関しては、創薬標的の探索技術開発は達成できているので、さらにその先の実用化に繋げてもらいたい。

以上